



平成 21 年 9 月 25 日

＜成人期における歯科疾患のスクリーニング体制の構築＞

＜概要＞ 歯周疾患（歯槽膿漏症）の検診内容としては、先の鋭利な器具を歯周ポケット内に挿入して歯周組織の破壊の程度を推定する方法が一般的です。これに対して、非侵襲的な方法としては、**質問調査**がその代表的な方法です。私たちは、質問調査をベースに、生化学的検査を組み合わせることにより、歯周疾患の有無をスクリーニングできるためのシステムを開発しようと計画しています。ある企業における歯科検診時にアンケート調査を行った結果、10 個の質問において適格な結果が得られ、歯周疾患の有無の判定に有効であることが統計学的に示されました。

歯周疾患（歯槽膿漏症）の検診内容としては、先の鋭利な器具を歯周ポケット内に挿入して歯周組織の破壊の程度を推定する方法が一般的です。

これに対して、非侵襲的な方法としては、**質問調査**がその代表的な方法であり、欧米では既に応用が検討されています。

私たちは、質問調査をベースに、以下に示す生化学的検査を組み合わせることにより、歯周疾患の有無をスクリーニングできるためのシステムを開発しようと計画しています。

検査内容：①質問調査（アンケート）、

②歯周組織の精密検査

③血液検査（歯周病原性細菌に対する血清抗体価：感染度検査）

④唾液検査（乳酸脱水素酵素、遊離ヘモグロビン：炎症度）

※ ある企業における歯科検診時にアンケート調査を行った結果

10 個の質問において適格な結果が得られ、**歯周疾患の有無の判定に有効**であることが統計学的に示されました。（Validity of a questionnaire for periodontitis screening of Japanese employees. Yamamoto T et al., J Occup Health. 2009;51:137-143）



岡山大学

PRESS RELEASE

この研究によって、以下のメリットが期待されます。

- ①コストパフォーマンスが良好である。（特に質問調査で判定する場合）
- ②非侵襲的，効率的なので患者の負担が少ない。
- ③歯科医院に行かなくても，家庭にしながら自己判定できる。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
予防歯科学分野・森田 学

(電話番号) 086-235-6710

(FAX 番号) 086-235-6714

(E-mail) mmorita@md.okayama-u.ac.jp